『同志社大学　日本語・日本文化研究』第 12 号　pp. 163－184（2014. 3）

韓国人日本語学習者への発音指導に関する一考察
－日本語のハングル表記を活用して－

A Study of Teaching Japanese Pronunciation for Korean Learners: Using the Korean Language Transcription

梶原　雄

要　旨

韓国人日本語学習者（以下、韓国人学習者）は、日本語学習の初期段階で仮名にハングルを併記することがある。聞き取った日本語の音声を、一旦韓国語の音韻体系、文字体系に適合させ、それを見ながら日本語に似せて発音していると考えられる。しかし、このような過程を経ることによって、本来の日本語の音とは違う音として再現される恐れがある。そのため本稿では、韓国人学習者が日本語を勉強する際に、仮名をハングルで表記し発音していること、また、その後もハングル表記に起因する誤用が繰り返されるということを前提に、現在韓国で制定されている「仮名のハングル表記法」を基に、仮名とそれに対応するハングル表記について、音声学的、音韻論的な観点から比較した。その結果、ハングルで表記すると他の仮名と混同する場合や、ハングルで表記できない日本語の音があることが明らかになった。次に、実際に韓国人学習者たちは、聞き取った日本語の音をどのようにハングルで表記するか調査を行った。その結果、長音、撥音、促音などの特殊音や、清音と濁音、母音の無声化で相違があった。このような表記で実際に日本語として発音した際、日本語らしさを失ってしまうほか、誤用が定着し化石化する恐れがある。そこで、ハングル表記を利用しどのような発音指導、発音矯正が可能かについて論じた。

キーワード

日本語　韓国語　韓国人学習者　ハングル表記　発音指導

1　はじめに

外国語を学ぶ際、文字と音に慣れていない初級学習者は目標言語を母語で表記することがある。韓国人学習者の場合においても、日本語の教科書に書かれてある日本語の文や単語に、韓国語[1]の文字であるハングル[2]を併記しているのをよく見かける。このような学習者は、聞き取った日本語の音を、一旦韓国語の音韻体系に置き換え、ハングルで表記した後、それを見ながら発音していると考えられる。このような行為は

外国語学習における学習ストラテジーの一つであるとみなすことができるが、ハングルは韓国語の音韻体系を反映させた文字であって、音韻体系が異なる他言語の発音を満足に反映させることはできない。このような過程を経ることは結果的に誤用となり、その後も誤用がそのまま定着する「化石化」が起き、上級レベルにおいても誤用を犯すことになる。

本稿では、韓国人学習者が日本語学習の初級段階で、日本語の音を聞き母語であるハングルで表記した後、日本語に似せて発音する際に誤用を生んでいることを前提に、日本語の音とハングル表記の音の相違点を明らかにした後、ハングルを活用してどのような発音指導法が可能かについて論じるものである。

2　外国語で表記するということ

まず、目標言語を母語で表記するとはどういうことかについて述べる。次の（1）から（6）は目標言語から学習者の母語に置き換えたものである。

（1）spring	英→日	スプリング
（2）Good morning.	英→日	グッドモーニング
（3）감사합니다.	韓→日	カムサハムニダ
（4）잘 부탁합니다.	韓→日	チャル　プッタクハムニダ[3]
（5）ありがとう。	日→韓	아리가토
（6）でんわは　あそこです。	日→韓	덴와와 아소코데스

（1）と（2）は英語を日本語表記したものである[4]。ここでは英語について詳しく扱わないが、音節についてのみ取り上げると、一般的に日本語は特殊な環境を除き母音（V）、子音（C）＋母音（V）の開音節の言語である一方、英語は閉音節の言語であると言われている。つまり、V、CV の音節に加え、CVC の音節も出現する。このような CVC の音節が現われた際、日本語では子音に母音を加えて仮名で表記する。その結果、音節の数が増え、原語とはまったく別の音で聞こえてしまう。（1）の spring [spriŋ] は 1 音節であるのに対し、日本語の仮名で表した場合、「ス・プ・リ・ン・グ」と 5 音節となってしまう。（2）も同様に、日本語では good [gˈʊd] は 3 音節で、morning [mˈɔəˌnɪŋ] は 5 音節となってしまう。

続いて、（3）、（4）は韓国語を日本語表記したものである。日本で市販されている韓国語辞典や初級の韓国語教材には、このような仮名の併記が見られる。韓国語は英語と同様に閉音節の言語であるので、日本語の仮名で表記しようとすると英語の場合と同じような問題が起こる。（3）では韓国語の場合は 5 音節だが、日本語では 7 音節となり、（4）では、韓国語では 6 音節であるが日本語では 10 音節となる[5]。

一方、（5）、（6）は「仮名のハングル表記法[6]」によって日本語をハングルで表記し

たものである。(5) の場合、「ありがとう」は 5 音節で語末に長音があるが、ハングルで表記すると「아리가토」となり、最後の長音「우（う）」が表記されず 4 音節となってしまう。また、表記されたとしても [u] と発音され、日本語の長音として正しく発音されない。(6) では、「でんわ」は「덴와」とハングルで表記でき、2 音節となる。また、実際にこのハングル表記を発音すると、「덴」の終声子音 / ㄴ /[n] と後続する母音（ここでは二重母音「와」）が一つの音になって発音される連音化が起こる。結果的に、日本語母語話者には「デヌァ」[denwa] と聞こえてしまう恐れがある。

このように、目標言語を学習者の母語で表記することは、あくまで外国語の音を忘れないために便宜上行うものであり、発話の際に原音を忠実に再現することはできないのである。

3　仮名のハングル表記の原則

3.1　仮名のハングル表記法

韓国では 1986 年に当時の文教部によって「外来語表記法」が定められた。この法律によると、制定理由について「外来語は韓国語と音韻体系がまったく違う言語からの借用であるため、表記を統一しなければ大きな混乱を招く恐れがあるため」とされている。現在では、日本語、英語、中国語をはじめ、21 カ国の言語の表記法が記載されている。

「外来語表記法」の中の日本語に関する記述は、同法第 2 章に示されている［表 4］と第 3 章第 6 節の細則が該当する。本稿末に添付の資料 1 は同法第 2 章に示されている「仮名のハングル表記法」である。それによると、仮名のハングル表記は少し複雑であり、仮名一文字がハングル一文字に対応しておらず、出現する場所（語頭、語中・語尾）によって変わってしまうということがわかる。また、撥音は「ㄴ」のみで表記され、促音は「ㅅ」で表記される。日本語の長音は表記しないとされている。

しかし、この規則はあくまで外来語（ここでは日本語）を表記する際の拠り所となるものであり、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送などにおいては、この規則が適用されるが、個人がこの規則に従って仮名を表記しなければならないというわけではない。そのため、ハングルによる仮名の表記が人によって違うことがしばしば見受けられる。「外来語表記法」と実際のハングル表記との違いに関する研究として、Pyeon（1999a）では、歴史的な文献資料を基に、仮名のハングル表記の実態について考察し、「外来語表記法」によらない慣用的な表記の規範を提示している。Oh（2009）では、韓国のポータルサイト「Daum」のインターネット日韓辞書の検索データを利用して、韓国人が日本語をハングルで表記する際にどのように表記するかについて調査している。その結果、「外来語表記法」によらない日本語のハングル表記が多数用いられていることを指摘している。例えば、「たこ焼き」は、「仮名のハングル表記法」に従えば「다코야키」と表記されるべきであるが、実際には、「타코야키」[t^hak^{h}ojak^{h}i] や「타코야끼」

[t^hak^{h}ojak*i] などと表記されることもあった。このような表記は、「外来語表記法」によらず、韓国語母語話者が聞こえた通りに表記しようとした結果である。日本語学習に関する限り、実際は学習者が日本語の音を聞いて理解した音、さらに日本語として発声しようとする音にはそれぞれ隔たりがあり、一音韻一記号を原則とする「外来語表記法」のみによる表記では不十分である。

では、このように仮名をハングル表記する際にその根拠となるものは何であろうか。次章では、日本語と韓国語の子音と母音を比較し、音声学的、音韻論的に考察してみることにする。

3.2　日本語と韓国語の母音

母音とは、口の中の器官によって妨害されることなく、流れ出る音であり、①舌の位置、②唇の形、③開口度によって決定される。それによると、日本語は 5 つの母音 /a, i, u, e, o/ で成り立つ 5 母音体系であると言われる。しかし、実は日本語はこのような一般的な 5 母音体系とは違い、円唇性を持つ /u/ の母音の代わりに非円唇 /ɯ/ の母音を持つ。厳密に言えば、/ɯ/ は /u/ に比べると円唇性が弱いのである [7]。このような日本語の母音を前述の 3 つの基準によって分類したものが表 1 である。

【表 1】日本語の母音体系

	前舌		後舌	
	非円唇	円唇	非円唇	円唇
高	い　[i]		う　[ɯ]	
中	え　[e]			お　[o]
低			あ　[ɑ]	

高見澤他（2008：31）を参考に作成

一方、韓国語の母音は、「標準発音法」第 2 章第 3 項によると、短母音及び二重母音まで含めると 21 個 [8] であり、この中で単母音に該当するのは、/ㅏ, ㅐ, ㅓ, ㅔ, ㅗ, ㅚ, ㅜ, ㅟ, ㅡ, ㅣ/ の 10 個である [9]。ここで注意すべきなのは、母音が 10 個あるというのは母音字母、つまり表記上 10 個あるという意味である。実際は、/ㅚ/ と /ㅟ/ は二重母音として分類されたり、/ㅐ/ と /ㅔ/ はもはや弁別されず一つの音素に統合される等、研究者によって見解が異なる。本稿では、実際の口語を反映させた体系として、7 母音体系を提唱している Shin（2008：73）に拠ることとする。表 2 はそれに基づいて韓国語の短母音の体系を表したものである。

「仮名のハングル表記法」では、基本的に日本語の母音 /a, i, ɯ, e, o/ に対応する韓国語の母音は /ㅏ/[a]、/ㅣ/[i]、/ㅜ/[u]、/ㅔ/[ɛ]、/ㅗ/[o] である。しかし、ウ段に関しては不規則な部分があり、「ス・ズ・ツ・ヅ」では、/ㅡ/[ɯ] が用いられていることがわかる。韓国語 /ㅡ/[ɯ] は、日本語 [ɯ] の「円唇性が弱い」ことを表すのではなく、上下の歯の

間隔が日本語の /イ/ よりもさらに狭い口の形で日本語の /ウ/ を発音するような音であることに注意しなければならない。

【表 2】韓国語の短母音体系

	前舌		後舌	
	非円唇	円唇	非円唇	円唇
高	ㅣ [i]		ㅡ [ɯ]	ㅜ [u]
中	ㅐ, ㅔ [ɛ]		ㅓ [ʌ]	ㅗ [o]
低			ㅏ [ɑ]	

Shin（2008：73）を参考に作成

3.3　日本語と韓国語の子音

子音とは、肺からの気流を口腔内の舌や歯などの各種器官によって途中で妨げることで発生する音である。日本語の子音は、半母音である /w, j/ を除外すると、/k, s, t, h, g, z, d, b, p, n, m, r, N/ の 13 個であり、各子音は①調音点、②調音方法、③声帯の振動の有無によって分類される。さらに音声学の観点からさらに細かく分類すると表 3 のようになる。表内の薄く塗りつぶした部分は行を表し、その他は相補分布によって現われる個別の音を表している。

【表 3】日本語の子音の調音位置と調音法

		両唇音		歯茎音		歯茎 硬口蓋音		硬口蓋音		軟口蓋音		口蓋垂音		声門音	
破裂音	無声	ぱ	p	た	t					か	k			ʔ	
	有声	ば	b	だ	d					が	g				
摩擦音	無声	ふ	ɸ	さ	s	し	ʃ	ひ	ç					は	h
	有声	わ	w	ざ	z	じ	ʒ	や	j						
破擦音	無声			つ	ts	ち	tʃ								
	有声			ず	dz	じ	dʒ								
鼻音	有声	ま	m	な	n	に	ɲ			か゜	ŋ	ん	N		
弾音	有声			ら	ɾ										

高見澤他（2008：36）、Huh 他（2010：53）を参考に作成

一方、韓国語の子音の数は日本語より多い 19 個であり、/ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇ, ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㅌ, ㅍ, ㅎ, ㄲ, ㄸ, ㅃ, ㅆ, ㅉ/ である。調音点と調音方法で分類すると表 4 のようになる。

子音に関して日本語と韓国語の最大の違いは、阻害音（破裂音・摩擦音・破擦音）において、日本語では有声音と無声音の対立があるのに対して、韓国語にはこのような有声音と無声音の対立は無く、有気音と無気音、それから発声器官の緊張の有無によって弁別されることである。例えば、日本語において両唇破裂音には無声音の /p/ と

有声音の /b/ の 2 種類があるのに対して、韓国語の子音では、両唇破裂音には / ㅂ, ㅍ, ㅃ / の 3 種類がある。同様に、歯茎破裂音には / ㄷ, ㅌ, ㄸ /、軟口蓋破裂音には、/ ㄱ, ㅋ, ㄲ /、歯茎硬口蓋破擦音には / ㅈ, ㅊ, ㅉ / がある。このような 3 系列ある音をそれぞれ平音 / ㅂ, ㄷ, ㄱ, ㅈ /、激音 / ㅍ, ㅌ, ㅋ, ㅊ /、濃音 / ㅃ, ㄸ, ㄲ, ㅉ / と呼ぶ。歯茎摩擦音には平音の / ㅅ / と濃音の / ㅆ / の 2 種類がある。

【表 4】韓国語の子音の調音位置と調音法

		両唇音	歯茎音	歯茎 硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	平音	ㅂ　p	ㄷ　t		ㄱ　k	
	激音	ㅍ　p^h	ㅌ　t^h		ㅋ　k^h	
	濃音	ㅃ　p*	ㄸ　t*		ㄲ　k*	
摩擦音	平音		ㅅ　s			ㅎ　h
	濃音		ㅆ　s*			
破擦音	平音			ㅈ　tʃ [10]		
	激音			ㅊ　$tʃ^h$ [10]		
	濃音			ㅉ　tʃ* [10]		
鼻音	有声	ㅁ　m	ㄴ　n		ㅇ　ŋ	
流音	有声		ㄹ　ɾ			

Huh 他（2010：46）を参考に作成

次に、韓国語の平音、激音、濃音と日本語の清音、濁音との関係を有声性という観点から見ると表 5 のようになる。

【表 5】日本語の清音・濁音と韓国語の平音・激音・濃音の関係

	清音 （無声音）	濁音 （有声音）
平音（気をわずかに伴う）	○語頭	○有声音間
激音（有気音）	○	
濃音（無気音・緊張）	○	

表 5 によると、平音 / ㅂ /[p]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[k]、/ ㅈ /[tʃ] は、語中の母音等の有声音間では有声音となり、それぞれ / ㅂ /[b]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[g]、/ ㅈ /[dʒ] として現われる。つまり、韓国語では有声音 / ㅂ /[b]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[g]、/ ㅈ /[dʒ] が語頭に現われることはない。また、激音 / ㅍ, ㅌ, ㅋ, ㅊ / は有気音であるため、非常に強い気音（aspiration）を伴う。濃音 / ㅃ, ㄸ, ㄲ, ㅉ / は無気音であり、発声器官の緊張を伴う音である。通常、激音と濃音は無声音である。

本章では、日本語の母音と子音を基に、該当する韓国語の母音と子音とを比較しながら音声学的、音韻論的な観点から概観した。母音に関しては、日本語の母音 /a, i, ɯ, e,

o/ に対応する韓国語の母音は / ㅏ /[a]、/ ㅣ /[i]、/ ㅜ /[u]、/ ㅔ /[ɛ]、/ ㅗ /[o] であり、ウ段に関しては、一部 / ㅡ /[ɯ] と表記されること、子音に関しては、阻害音では日本語は有声か無声かという弁別的特徴を持っているが、韓国語では有気か無気か、また発声器官の緊張の有無による弁別的特徴を持つことが大きな違いである。また、有声か無声かという弁別的特徴はないが、現われる場所によって有声か無声かに区別することができる。

次章では、仮名のハングル表記を仮名の 50 音図に照らし合わし、ハングルを発音する際の特徴と誤用及び指導法について考えてみることにする。その後、実際の日本語学習者のハングル表記事例を基に、日本語の発音指導法について考えてみることにする。

4　50 音図による比較

4.1　ア行

日本語のア行に関しては、韓国語学習者が母語である韓国語を活用して、それぞれ아 [ɑ]、이 [i]、우 [u]、에 [ɛ]、오 [o] と発音しても、聞き手である日本語母語話者は意味の弁別において特に問題はない。しかし、이 [i] は日本語の / イ / よりもさらに狭く、前よりの母音であり、우 [u]、오 [o] は円唇であるため、日本語母語話者にとっては非常にはっきりした口の動きになる。そのため、日本語らしい音にするには、口の開きや円唇性を若干弱めるように指導する。ア行は母音となるので、すべての行において共通する。

仮名	ア	イ	ウ	エ	オ
	[a]	[i]	[ɯ]	[e]	[o]
ハングル表記	아	이	우	에	오
	[a]	[i]	[u]	[ɛ]	[o]

4.2　カ行・ガ行

日本語のカ行・ガ行の音は、調音点及び調音方法は共に韓国語と一致していることがわかる。ここでの特徴は、子音の /k/ と母音の /i/ が結合し口蓋化しているということである。また、破裂音であるカ行には、有声無声の対立があり、韓国語の平音及び激音により弁別することとなる。ただし、語中・語尾に現われる激音 / 카 /[k^ha]、/ 키 /[k^hi]、/ 쿠 /[k^hu]、/ 케 /[k^hɛ]、/ 코 /[k^ho] は、日本語母語話者にとってカ行音の異音として同じ音であると認識されるものの、非常に強い「息」を伴うため、違和感を覚える原因となる。長渡（2009:21）では、「声を出さない、息のかすれるようなささやき声」と表現しているが、この「ささやき声」を無くすよう意識させることが必要である。

清音	カ	キ	ク	ケ	コ
	[ka]	[kʲi]	[kɯ]	[ke]	[ko]
濁音	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
	[ga]	[gʲi]	[gɯ]	[ge]	[go]

清音	語頭	가	기	구	게	고
		[ka]	[kʲi]	[ku]	[kɛ]	[ko]
	語中・語尾	카	키	쿠	케	코
		[kʰa]	[kʰi]	[kʰu]	[kʰɛ]	[kʰo]
濁音	すべて	가	기	구	게	고
		[ga]	[gʲi]	[gu]	[gɛ]	[go]

4.3　サ行・ザ行

日本語のサ行に対応する韓国語の子音は / ㅅ /[s] であるが、ここではウ段の / ス / 及び / ズ / の音が不規則であることがわかる。前述のように韓国語 / ㅡ /[ɯ] は、極端に言うと日本語の / イ / よりもさらに狭い口の形で日本語の / ウ / を発音するような音なので、口の形をやや円唇にするよう指導する必要がある。

続いて、有声歯茎摩擦音であるザ行は注意が必要である。その理由は、現代韓国語にはこの音素は無く、歯茎硬口蓋破擦音である / ㅈ / で代用することになるからである。結果的に、/ ザ /[za] を [dʒa]、/ ズ /[zu] を [dʒɯ]、/ ゼ /[ze] を [dʒɛ]、/ ゾ /[zo] を [dʒo] と発音するほかない。それを防ぐためには、日本語の / ザ、ズ、ゼ、ゾ / は、/ ㅅ /[s] の調音点と同じ歯茎であり、その位置を維持したまま舌端と歯茎でわずかな隙間を作るように指導しなければならない。/ ジ / は所謂「四つ仮名」のため [dʒi] と [ʒi] を区別させる必要はない[11]。

清音	サ	シ	ス	セ	ソ
	[sa]	[ʃi]	[sɯ]	[se]	[so]
濁音	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
	[za]	[ʒi]	[zɯ]	[ze]	[zo]

清音	すべて	사	시	스	세	소
		[sa]	[ʃi]	[sɯ]	[sɛ]	[so]
濁音	すべて	자	지	즈	제	조
		[dʒa]	[dʒi]	[dʒɯ]	[dʒɛ]	[dʒo]

4.4　タ行・ダ行

日本語のタ行には3個の子音があり、[t][tʃ][ts] がそれに該当する。一方、韓国語では [t][tʃ] の2個の子音で表すことになる。そのため、タ行で問題となるのは / ツ / である。この / ツ / の音は韓国語の音韻体系にはなく、それに類似する / 쓰 / で代用するためである。歯茎摩擦音 / 쓰 /[s*ɯ] は濃音であり、無声無気で発声器官の緊張を伴う音である。調音点は日本語の / ツ / も / 쓰 / も歯茎音であるが、調音方法が異なる。発音指導の際のポイントとなるのは、/ 스 /[sɯ] の位置で、舌を歯茎にしっかり付け、息を出すことである。

語中・語尾の清音に関しては、/ ツ / を除き、それぞれ激音 / 타 /[tʰa]、/ 치 [tʃʰi]/、/ 테 /[tʰɛ]、/ 토 /[tʰo] と表される。その際の注意点は、カ行音と同じである。

清音	タ	チ	ツ	テ	ト
	[ta]	[tʃi]	[tsɯ]	[te]	[to]
濁音	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
	[da]	[dʒi]	[dzɯ]	[de]	[do]

清音	語頭	다	지	쓰	데	도
		[ta]	[tʃi]	[s*ɯ]	[tɛ]	[to]
	語中・語尾	타	치		테	토
		[tʰa]	[tʃʰi]		[tʰɛ]	[tʰo]
濁音	すべて	다	지	즈	데	도
		[da]	[dʒi]	[dʒɯ]	[dɛ]	[do]

4.5　ナ行

日本語の歯茎鼻音であるナ行に対応する韓国語の子音は / ㄴ /[n] である。日本語では /i/ が後続する際に、舌が後ろに引かれ硬口蓋鼻音 [ɲ] となっているが、韓国語においても同様の現象が起きる。ナ行では特に問題はないことがわかる。

仮名	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
	[na]	[ɲi]	[nɯ]	[ne]	[no]
ハングル表記	나	니	누	네	노
	[na]	[ɲi]	[nu]	[nɛ]	[no]

4.6　ハ行・パ行・バ行

日本語のハ行の子音 /h/ には [h] [ç] [ɸ] の3個の子音があり、[h] は /a, e, o/ が後続するとき、[ç] は /i/ が後続するとき、[ɸ] は両唇摩擦音で /ɯ/ が後続するときに現われる。韓国語では、語頭に現われる時は / フ /[ɸʷu] と / ホ /[ɸʷo]/ が円唇化する以外は日本語

と同じだが、語中・語尾に現われる時は子音は [ɦ] として現われる。これは声門音である / ㅎ /[h] が口腔で調音点を持つことができず、後続する母音に引っ張られることで有声化することを意味する。日本語でも起こりうるが、韓国語では特に顕著であるため、ハ行音として聞こえず、ア行音として聞こえる場合がある。そのため、しっかりと /h/ を出すように指導することが必要である。

仮名		ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
		[ha]	[çi]	[ɸɯ]	[he]	[ho]
ハングル表記		하	히	후	헤	호
	語頭	[ha]	[çi]	[ɸ^{w}u]	[hɛ]	[ɸ^{w}o]
	語中・語尾	[ɦa]	[ɦi]	[ɦu]	[ɦɛ]	[ɸ^{w}o]

日本語の半濁音であるパ行と濁音であるバ行の音は、調音点及び調音方法は共に韓国語と一致していることがわかる。韓国語では、既出のカ行・ガ行やタ行・ダ行と同様に、平音及び激音を使って弁別することとなる。激音の指導についてはすでに述べた通りである。

仮名	パ	ピ	プ	ペ	ポ
	[pa]	[pi]	[pɯ]	[pe]	[po]
ハングル表記	파	피	푸	페	포
	[pa]	[pi]	[pu]	[pɛ]	[po]

仮名	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
	[ba]	[bi]	[bɯ]	[be]	[bo]
ハングル表記	바	비	부	베	보
	[ba]	[bi]	[bu]	[bɛ]	[bo]

4.7　マ行

日本語の両唇鼻音であるマ行に対応する韓国語の子音は / ㅁ /[m] である。以下の表を見ると、各段のすべての子音が一致していることがわかる。

仮名	マ	ミ	ム	メ	モ
	[ma]	[mi]	[mɯ]	[me]	[mo]
ハングル表記	마	미	무	메	모
	[ma]	[mi]	[mu]	[mɛ]	[mo]

4.8　ヤ行

日本語では半母音と呼ばれ、硬口蓋接近音であるヤ行音に対応する韓国語は、二重母音で表される / 야 /[ja]、/ 유 [ɥu]/、/ 요 /[ɥo] である。/ 유 /、/ 요 / では、両唇と硬口蓋の 2 カ所を接近することで作られた隙間から生じる音 [ɥ] が異音として現われるが、おおむね日本語の / ユ /、/ ヨ / として認識されるので問題にはならない。

仮名	ヤ		ユ		ヨ
	[ja]		[jɯ]		[jo]
ハングル表記	야		유		요
	[ja]		[ɥu]		[ɥo]

4.9　ラ行

日本語の歯茎弾音であるラ行音に対応する韓国語の子音は / ㄹ /[ɾ] である。以下の表を見ると、各段のすべての子音が一致していることがわかる。

仮名	ラ	リ	ル	レ	ロ
	[ɾa]	[ɾi]	[ɾɯ]	[ɾe]	[ɾo]
ハングル表記	라	리	루	레	로
	[ɾa]	[ɾi]	[ɾu]	[ɾɛ]	[ɾo]

4.10　ワ行

日本語の半母音で軟口蓋接近音であるワ行音の / ワ /[ɯɰa] に対応する韓国語は、二重母音で表される / 와 /[wa] である。

仮名	ワ
	[ɯɰa]
ハングル表記	와
	[wa]

4.11　拗音

日本語の拗音は、直音が硬口蓋化することによって形成された音節である一方、韓国語は非円唇硬口蓋接近音、所謂、半母音 /j/[j] で対応していることがわかる。

キャ	キュ	キョ
[kʲa]	[kʲɯ]	[kʲo]
갸	규	교
[kja]	[kju]	[kjo]
캬	큐	쿄
[kʰja]	[kʰju]	[kʰjo]

シャ	シュ	ショ
[ʃa]	[ʃɯ]	[ʃo]
샤	슈	쇼
[sja]	[sju]	[sjo]

チャ	チュ	チョ
[tʃa]	[tʃɯ]	[tʃo]
자	주	조
[dʑa]	[dʑu]	[dʑo]
차	추	초
[tʃʰa]	[tʃʰu]	[tʃʰo]

ギャ	ギュ	ギョ
[gʲa]	[gʲɯ]	[gʲo]
갸	규	교
[gja]	[gju]	[gjo]

ジャ	ジュ	ジョ
[ɖʑa]	[ɖʑɯ]	[ɖʑo]
자	주	조
[dʑa]	[dʑu]	[dʑo]

ニャ	ニュ	ニョ
[nʲa]	[nʲɯ]	[nʲɯ]
냐	뉴	뇨
[nja]	[nju]	[njo]

ピャ	ピュ	ピョ
[pʲa]	[pʲɯ]	[pʲo]
퍄	퓨	표
[pʰja]	[pʰju]	[pʰjo]

ミャ	ミュ	ミョ
[mʲa]	[mʲɯ]	[mʲo]
먀	뮤	묘
[mja]	[mju]	[mjo]

ヒャ	ヒュ	ヒョ
[ça]	[çɯ]	[ço]
햐	휴	효
[hja]	[hju]	[hjo]

ビャ	ビュ	ビョ
[bʲa]	[bʲɯ]	[bʲo]
뱌	뷰	뵤
[bja]	[bju]	[bjo]

リャ	リュ	リョ
[ɾʲa]	[ɾʲɯ]	[ɾʲo]
랴	류	료
[ɾja]	[ɾju]	[ɾjo]

拗音において注意しなければいけないのは、前述のザ行とジャ行、チャ行を混同しないことである。語頭の清音の代用となる激音、例えば / ㅋ /[kʰ]、/ ㅊ [tʃʰ]/、/ ㅍ /[pʰ] は、これまで同様に激しい息が出ないよう注意する必要がある。

これまで、仮名のハングル表記について、50 音図に従って音声学的、音韻論的観点から比較してきた。実際にこのような指導法はどのような場面で活用できるかについては、日本での多国籍の教室環境や、韓国での大多数の学習者への指導法としては不向きであることは否めない。しかし、個別的、補助的な発音指導としては、初級から上級までのすべてのレベルの韓国人学習者に対する発音指導、発音矯正に非常に有用であると考えられる。

次章では、学習者に行った調査を基に、実際に仮名はハングルでどのように表記され、そのハングル表記を読んだ際にどのような誤用が生じうるかについてみることにする。

5　韓国人学習者の実際の表記による比較

本章では、韓国人学習者が日本語の文を聞き、実際にハングルでどのように表記するかについて、調査結果を基により実践的な発音指導について考えてみることにする。

5.1　調査概要

韓国人学習者は、日本語を聞いた後、どのようにハングルで表記するかについて調査を行った。以下は、調査概要である。

調査時期：2012 年 6 月
対象者　：韓国の大学で日本語を学ぶ韓国人学習者 20 名
出題範囲：『みんなの日本語』1 ～ 3 課　各課 10 文　計 30 文
調査方法：『みんなの日本語』の該当課に出てくる単語を基に文を作り、日本語教育歴 5 年以上の教師に読み上げてもらったものを録音した。その後、学習者にその音声を聞かせる。学習者には事前に、「外来語表記法」とは関係なく聞き取った音をそのままハングルで書き取るように指示した。

5.2　調査結果

日本語学習者のハングル表記文について、3 人以上が表記したものを取り上げて集計した結果、資料 2 のようになった。それを見ると、以下のような点で「仮名のハングル表記法」と相違するものがあった。

まず、ザ行音が「자」と「쟈」、「조」と「죠」のように短母音と二重母音の 2 種類で表記されていた。ただし韓国語において / 자 /[dʒa] と / 쟈 /[dʒa] は同じ音であるとされるので問題にはならない。しかし、「ザ」と「ジャ」が同じ音素とみなされる / 자 / と / 쟈 / で表記されており、このままでは / ザ、ズ、ゼ、ゾ / と / ジャ、ジュ、ジェ、ジョ / を区別して発音することができない。そのため、韓国人学習者の典型的な誤用として挙げられる。

続いて、「ス」については「스」と「쓰」の二種類の表記があった。/ 쓰 /[s*ɯ] も / 스 /[sɯ] の場合と同様に、口の形をやや円唇にするようし、さらに発声器官の緊張を和らげ息を出すように指導する必要がある。

次に、「ツ」は歯茎摩擦音の / 쓰 /[s*ɯ] ではなく、後部歯茎破擦音の / 즈 /[tʃɯ]] や / 쯔 /[tʃ*ɯ]] での表記が多かった。その場合、調音点が歯茎よりも後ろになるため、調音点を前に持ってくるように指導する必要がある。

次に、日本語の特殊音である「長音」、「撥音」、「促音」、それから、「清音と濁音」、「母音の無声化」においても特徴的な部分があった。各項目について、相違点と指導法について考察する。

①長音

日本語の長音に関して、韓国人学習者は、表記する場合と表記しない場合に分けられた。さらに、表記する場合は仮名通りに表記する場合と、発音通りに表記する場合とに分けられた。例えば、(1) の「おはよう」[ohayo:] では、韓国人学習者は오하요 [ohayo]、오하요오 [ohayo.o]、오하요우 [ohayo.u] と表記していた。続いて、(2) の「どうぞ」[do:zo] については、도조 [dodʒo]、도오조 [do.odʒo]、도우조 [do.udʒo] と表記していた。韓国語の場合、基本的に音の長さが弁別力を持っているのは第 1 音節においてのみであり、その他では長音が現われないといわれている。そのため、(1) のように長音が語末に

現われた場合は、発音が難しい[12]。

(1)	お	は	よ	う
	오	하	요	×
				오
				우

(2)	ど	う	ぞ
	도	×	조
		오	
		우	

一般的に長音の指導は、他の音節同様に拍（モーラ）を維持することを中心に指導がなされてきた。ハングル表記を用いた指導法としては、韓国人学習者はたとえ第 1 音節に長音が来ることがあるといっても、音の長さが足りないこと多いので、長音は音声どおり書き、「お・は・よ・お」、「ど・お・ぞ」と拍の感覚を覚えさせる。その後、長音となる部分は前の音節の母音から滑らかにつながるように練習する。「仮名のハングル表記法」では、長音は表記しないことになっているが、長音をハングル表記することにより、拍の習得ができ、仮名表記と実際の発音とは違う音であることも指導可能である。

他にも、「ありがと**う**」「ぎんこ**う**いん」「ちゅ**う**ごく」「せんせ**い**」「きょ**う**かしょ」「しょくど**う**」「じど**う**しゃ」で同じような表記が確認された。

②撥音

日本語では撥音と呼ばれる / ン / は、後続する子音によって音が変わり、その子音の調音点をもつ鼻音として現われる。例えば、両唇音が後続する場合、/ ン / は [m] となることから両唇音 +[m] とすると、歯茎音 +[n]、硬口蓋音 +[ɲ]、軟口蓋音 +[ŋ]、後続音がない場合は [ɴ] となる。韓国語では、子音に / ㅁ /[m]、/ ㄴ /[n]、/ ㅇ /[ŋ] があり、(3) のように書くことができ、日本語よりも音を正確に書き表すことができる。ただし、「こんばんは」の 2 個目の / ン / は口蓋垂付近の閉鎖を伴う [ɴ] であり、韓国語にはない。

このように / ン / は多様ではあるものの、必ずしも区別しなければ意味が伝わらないという訳ではない。たとえ正確にハングルで表記できなくても、発声する際には自然と調音点が動くのである。

この撥音 / ン / において韓国人学習者が問題となるのは、長音同様に音の長さと連音化である。「ン」は音節末の子音、所謂、パッチム（終声）として表記されるため、音の長さが短くなってしまう。(3) は便宜上 / ㄴ, ㅁ, ㅇ / を「고」とは別個の音節のように表記しているが、本来は「곤」や「곰」や「공」のように表記し、1 音節である。それから、(4) をみると「ワインを」では本来 4 拍だが、ハングル表記では와잉오 [waiŋo] と表記され 4 拍より若干短くなってしまったり、/ ㄴ / を使った場合は와인오 [waino] となり、連音化してしまう[13]。

(3) こ　ん　ば　ん　は
　　고　ㄴ　바　ㅇ　와
　　　ㅁ
　　　ㅇ

(4) ワ　イ　ン　を
　　와　이　ㅇ　오
　　와　이　ㄴ　오

撥音の一般的な指導は、長音同様に拍（モーラ）を維持し、連音化させないように指導がなされてきた。指導法としては、日本語の / ン / は常に独立して発音され、他の音節同様に１拍分の長さが必要であること、それから、後続の音と連音化しないように「ン」で一度止め、一拍を認識させるような練習が必要である。

③促音

日本語の促音 / ッ / は、破裂音や破擦音に後続する子音によって音が変わる。まず、閉鎖を伴う無声音（外来語では有声音もありうる）が促音に後続した場合、促音 / ッ / に相当する部分では調音器官が閉鎖を形成し無音となる。他方、摩擦音 / サ / や / シ / が促音に後続した場合、[s] や [ʃ] が促音に該当し、これらの摩擦が聞こえる。

「仮名のハングル表記」の規則に従った場合、(5)、(6) の上段で表記されているように、「ㅅ」で表記することになっている。韓国語の場合、パッチム（終声）には /p, t, k, m, n, ŋ, l/ の７種類の音素が現われる。そのため、日本語の促音「ッ」は、後続する子音の調音点を反映させることができ、/ ㅂ /[p]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[k] の子音を用いてより正確に書き表すことができる。韓国人学習者に問題となるのは、促音の長さと濃音化である。

(5) ざ　っ　し　で　す　か
　　자　ㅅ　시　데　스　까
　　쟈　ㅅ　씨

(6) ち　か　い　っ　か　い
　　치　카　이　ㅅ　까　이
　　　　　이　ㄱ　카　이

促音に関する指導も、拍（モーラ）の長さに重点が置かれる。なぜなら韓国語のパッチム（終声）には１拍分の長さがないためである。また、韓国語は、原則的にパッチムの / ㅂ /[p]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[k] の直後に平音 / ㅂ /[p]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[k]、/ ㅅ /[s]、/ ㅈ /[tʃ] が来るとき、平音は濃音に変化する。つまり、日本語に置き換えると、「っ」の直後の子音がカ行、タ行、バ行、サ行、ジャ行の音が来る場合、無声無気音で発声器官の緊張を伴う濃音である可能性が高いということである。しかし、(5) と (6) を見ると、閉鎖性促音（閉鎖後に開放）と摩擦促音（閉鎖を伴わないささやき声に似た摩擦音）という促音の特性を聞き分けて激音で表記する場合もあった。そのため、促音「ッ」の直後のカ行、タ行、バ行、サ行、ジャ行が韓国語の激音や濃音のような極端な音にならないような指導が必要である。

④清音と濁音

「仮名のハングル表記法」において、原則的に語頭の清音は平音で表記し、語中・語尾の清音は激音で表記するという規則があった。しかし、調査結果を見ると、(7) や (8) のように、平音と激音・濃音の使用についてほとんどの設問で混用が見られた。語頭と語中・語尾に関係なく、清音は激音や濃音で表記され、濁音は平音で表記されていたのである。たとえ韓国人学習者がそのように区別していたとしても、激音や濃音は基本的には無声音であるために、日本語母語話者には異音として認識されるものと思われる。

(7) こ れ か ら
고 레 카 라
코

(8) か ん こ く ご の
가 ㅇ 코 쿠 고 노
카 ㄴ 꼬 꾸

一方で、清音と濁音で韓国語学習者に問題となるのは、語頭の濁音である。語頭の濁音はハングルで表記する方法がないため、韓国人学習者にとって最も混同しやすいものとなっている。語頭の濁音の練習方法としては、濁音を出させたい語頭の音節の前に他の音節を配置し、一時的に語頭を語中とすることで有声化させる方法が行われている。例えば、「がいこく」では가이코쿠 [kaik^{h}ok^{h}u] と表記されるが、「으」を語頭に挿入することで（으）가이코쿠 [（ɯ）gaik^{h}ok^{h}u] のように濁音を認識させることができる。韓国語にも有声音・無声音が使われるので語中・語尾で現われる平音の有声音を意識させ、その音を語頭で発音させるようにすることが重要である。

⑤母音の無声化

日本語の文末表現において、丁寧形として用いられる「です・ます」に現われる日本語の無声歯茎摩擦音「す」は、韓国語の歯茎摩擦音である스 [sɯ]、もしくは쓰 [s*ɯ] とハングルで表記されていた。子音の指導方法についてはすでに言及したとおりであるが、ここでもう一つ重要なことは、文末の子音が無声子音 [i][ɯ] の際に起こるとされる母音の無声化が、ハングル表記では見逃されてしまうことである。

(9) ご ざ い ま す
고 자 이 마 스
쓰

(10) あ そ こ で す
아 소 코 데 스
쓰

韓国語において母音の無声化は一般的に有気音や摩擦音が先行する狭母音が無声化しやすいといわれるが、母音の無声化の発生には個人差があり、無声化しなければ韓国語母語話者が違和感を覚えるようなものではない。

母音の無声化については、意味の区別には影響を及ぼさないので、初級段階で教えるべきかどうかについて議論の余地があるが、少なくとも仮名のハングル表記では母音の無声化を正しく発音できないことが明らかになった。また、文末においては、ハングル表記通りに濃音 / ㅆ /[s*ɯ] で発音されることも多く、特に中・上級レベルにおいては、日本語らしさを著しく欠く原因となる。そのため、ハングル表記を使う発音指導を行う際には、該当の音節から母音を取り除いたり（例：데ㅅ→데ㅅ）、母音を薄く表す等で意識させることが重要である。

6　おわりに

本稿では、韓国人学習者に対する発音指導法の一例として、特に初級段階において頻繁に見られる仮名のハングル表記に焦点を当て、音声学的、音韻論的な観点から日本語の仮名と仮名のハングル表記を比較し、発音上の問題点及びハングル表記を活用した発音指導について考察してきた。

日本語を学び始めた韓国人学習者は、まず文字と発音を覚える負担感と、正しく発音しなければならないという圧迫感に晒されるわけだが、容易に近似音を発することができる仮名のハングル表記は、日本語学習をする上で非常に有用なものであると考えられる。しかしながら、ハングルによる発音表記は日本語の音韻体系には合致しないという点で厳密性を犠牲にしており、発音の際に母語干渉を強く受けることが予想される。また、全ての学習者が通ってきた道であることから、初級に限らず全てのレベルの韓国人学習者に共通する問題であるといえる。従って、仮名のハングル表記を効果的に利用し、韓国人学習者の誤用を予想し修正するためには、日本語と韓国語の音韻体系の相違点を理解した上で、韓国人学習者が発する近似音から、どのようにすればより日本語らしい発音になるかについて指導する必要があると考える。

今回は、「仮名のハングル表記法」による仮名のハングル表記と日本語の仮名とを対照し、それから、実際に学習者が表記したハングル表記文がどのように音声として産出され得るかについて、音声学的、音韻論的に考察したが、このような仮名のハングル表記が実際にどのように発音されるかについて本稿では明らかにすることができなかった。そのため、韓国人学習者のハングル表記の音声資料に基づく分節音及び超分節音の分析を今後の課題としたい。

注

1　本稿では、現在韓国で標準語とされるソウル方言を扱うため、「韓国語」という言語の名称を用いることとする。

2　「ハングル」とは韓国語を表記するための文字の名称である。本稿では、言語の名称である「韓国語」と、文字の名称である「ハングル」とを区別する。

3　語頭の平音 / ㅂ /[p]、/ ㄷ /[t]、/ ㄱ /[k]、/ ㅈ /[tʃ] については、教科書によって清音や濁音（半濁音）で表記されることもあり、仮名表記の規則はない。

4　内閣告示第二号『外来語の表記』（平成 3 年 6 月 28 日）による。

5　韓国語の音節は、①母音（V）、②子音 + 母音（CV）、③母音 + 子音（VC）、④子音 + 母音 + 子音（CVC）の 4 種類である。多くの場合、韓国語の音節数はその単語の文字数と見ることができる。ただし、韓国語の正書法上の分綴（ぶんてつ）（分かち書き）と音節区分とは必ずしも一致しない。

6　次章参照。

7　本稿では、韓国語の / ㅜ /[u] と区別するため、日本語の母音 / ウ / の音素を /ɯ/ と表記する。

8　韓国語の母音は、短母音合成母音を含めて、ㅏ, ㅐ, ㅑ, ㅒ, ㅓ, ㅔ, ㅕ, ㅖ, ㅗ, ㅘ, ㅙ, ㅚ, ㅛ, ㅜ, ㅝ, ㅞ, ㅟ, ㅠ, ㅡ, ㅢ, ㅣ の 21 個である。

9　母音を表記する際は、音価を持たない子音字母である「ㅇ（イウン）」を書かなければならないが、ここでは母音のみに注目するため省略してある。

10　歯茎破擦音の表記について、無声音では [tʃ] または [tɕ]、有声音では [dʒ] と [dʑ] の表記が見られるが、本稿では無声音 [tʃ]、有声音 [dʒ] と表記することにする。

11　「じ、ぢ、ず、づ」の四つ仮名について、共通語においてそれぞれの区別が失われてしまったため、「じ、ぢ」は [dʒi]、「ず、づ」を [dzɯ] とする。

12　李他（2004）によると、第 1 音節の音の長短による最小対立語の例として、말（馬）[mal] と말（言葉）[mal:]、눈（目）[nun] と눈（雪）[nu:n]、밤（夜）[pam] と밤（栗）[pa:m] が挙げられており、첫 눈 [tsʰʌnnun]、거짓말 [kɔ:dzcinmal]、알밤 [albam] のように第 2 音節以下に現われた場合、長母音は短母音に変わるとされている。

13　ワイン（wine）は韓国語でも外来語であり「와인」と表記される。

参考文献

赤木浩文･古市由美子･内田紀子（2010）『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』, スリーエーネットワーク

秋美鎬・William O'Grady・山下佳（2008）『韓国語発音ガイド　理論と実践』, 白帝社

鹿島央（2011）『日本語教育を目指す人のための基礎から学ぶ音声学』, スリーエーネットワーク

窪薗晴夫（2010）『現代言語学入門 2　日本語の音声』, 岩波書店

斉藤純男（2002）『日本語音声学入門』, 三省堂

高見澤孟監（2008）『新・はじめての日本語教育 1　日本語教育の基礎知識』, アスク

中川千恵子・中村則子（2010）『初級文型でできるにほんご発音アクティビティ』, アスク

野間秀樹編（2007）『韓国語教育論講座』第 1 巻, くろしお出版

長渡陽一（2009）『韓国語の発音と抑揚トレーニング』, アルク

李翊燮・李相億・蔡琬（2004）『韓国語概説』, 大修館書店

Huh, Yong・Kim, Seong-Jeong（2010）『외국어로서의 한국어 발음교육론（外国語としての韓国語発音教育論）』, Pagijong Press

Kim, Jo-Ung・尾崎達治（2008）『동경발음 일주일에 끝내기（東京発音一週間で完成）』, 時事日本語社

Kang, Yeon-Hwa（2012）「한국인 일본어 학습자의 촉음 지도 – 음성지도법의 비교를 중심으로―（韓国人日本語学習者の促音の指導―音声指導法の比較を中心に―）」『日本文化研究』第 44 号, 東アジア日本学会, pp.21-41.

Lee, Dong-Wook（2010）「일본어 문자와 발음교육에 있어서 풀어야 할 몇 가지 문제（日本語の文字と発音教育において解くべき課題）」『日本語文学』第 51 号, 日本語文学会, pp.145-166.

Lee, Ju-hae・Lee, Gyu-hang・Kim Sang-Jun（2008）『한국어발음사전（韓国語発音辞典）』, 地

球文化社
Lee, Hyung-Jae（2006）「한국인 초급 학습자의 일본어 특수음소 발음 분석 연구（韓国人初級学習者の日本語特殊音素の発音に関する分析研究）」『日本語文学』第 31 号，韓国日本語文学会，pp.267-288.
Oh, Mi-Yeong（2009）「한국인의 일본어 표기의식에 관한 조사연구 – 다음 인터넷 일한사전 검색 데이터를 이용하여— (韓国人の日本語表記意識に関する調査研究　—ポータルサイト『ダウム』の日韓辞典検索データを利用して—)」『日本研究』第 39 号，韓国外国語大学校，pp.139-159.
Pyeon, Mu-Jin（1999a）「일본어 한글 표기의 합리적 방안 – 관용적 표기를 근간으로— （日本語のハングル表記の合理的方法 —慣用的表記を根幹に—）」『日語日文学研究』第 34 号，日語日文学会，pp.17-34.
————（1999b）「일본어 한글 표기의 역사적 고찰（日本語のハングル表記の歴史的考察）」『日本文化学報』第 6 号，日本文化学会，pp.223-247.
Shin, Ji-Yong Cha, Jae-Eun（2008）『우리말 소리의 체계（韓国語の音の体系）』，韓国文化社

資料1　仮名のハングル表記法

かな	ハングル表記	
	語頭	語中・語末
ア イ ウ エ オ	아 이 우 에 오	아 이 우 에 오
カ キ ク ケ コ	가 기 구 게 고	카 키 쿠 케 코
サ シ ス セ ソ	사 시 스 세 소	사 시 스 세 소
タ チ ツ テ ト	다 지 쓰 데 도	타 치 쓰 테 토
ナ ニ ヌ ネ ノ	나 니 누 네 노	나 니 누 네 노
ハ ヒ フ ヘ ホ	하 히 후 헤 호	하 히 후 헤 호
マ ミ ム メ モ	마 미 무 메 모	마 미 무 메 모
ヤ イ ユ エ ヨ	야 이 유 에 요	야 이 유 에 요
ラ リ ル レ ロ	라 리 루 레 로	라 리 루 레 로
ワ（ㅘ）ウ（ㅙ）ヲ	와（이）우（에）오	와（이）우（에）오
ン		ㄴ
ガ ギ グ ゲ ゴ	가 기 구 게 고	가 기 구 게 고
ザ ジ ズ ゼ ゾ	자 지 즈 제 조	자 지 즈 제 조
ダ ヂ ヅ デ ド	다 지 즈 데 도	다 지 즈 데 도
バ ビ ブ ベ ボ	바 비 부 베 보	바 비 부 베 보
パ ピ プ ペ ポ	파 피 푸 페 포	파 피 푸 페 포
キャ キュ キョ	갸　규　교	캬　큐　쿄
ギャ ギュ ギョ	갸　규　교	갸　규　교
シャ シュ ショ	샤　슈　쇼	샤　슈　쇼
ジャ ジュ ジョ	자　주　조	자　주　조
チャ チュ チョ	자　주　조	차　추　초
ニャ ニュ ニョ	냐　뉴　뇨	냐　뉴　뇨
ヒャ ヒュ ヒョ	햐　휴　효	햐　휴　효
ビャ ビュ ビョ	뱌　뷰　뵤	뱌　뷰　뵤
ピャ ピュ ピョ	퍄　퓨　표	퍄　퓨　표
ミャ ミュ ミョ	먀　뮤　묘	먀　뮤　묘
リャ リュ リョ	랴　류　료	랴　류　료

資料2　日本語のハングル表記に関する調査結果

1	お 오	は 하	よ 요	う × 오 우		ご 고	ざ 자 쟈	い 이	ま 마	す 스 쓰						
2	こ 곤 곰 콘 콤 콩	ん	ば 방	ん	は 와											
3	あ 아	り 리	が 가	と 또 토	う × 오 우		ご 고	ざ 자 쟈	い 이	ま 마	す 스 쓰					
4	す 스 쓰	み 미	ま 마	せ 셍 센	ん											
5	ど 도	う × 오 우	ぞ 조 죠		よ 요	ろ 로	し 시	く 꾸 쿠		お 오	ね 네	が 가	い 이	し 시	ま 마	す 스 쓰
6	が 각	く	せ 세	い × 이	じゃ 쟈		あ 아	り 리	ま 마	せ 셍 센	ん					
	か 카	い 이	しゃ 샤	い 인 잉	ん	で 데	す 스 쓰									
7	わ 와	た 타 따	し 시	は 와		い 이	しゃ 샤	で 데	は 와		あ 아	り 리	ま 마	せ 셍 센	ん	
	ぎ 깅 긴	ん	こ 코 꼬	う × 우 오	い 인	ん	で 데	す 스 쓰								
8	ア 아	メ 메	リ 리	カ 카 까 가	じ 진 징	ん	じゃ 쟈		あ 아	り 리	ま 마	せ 셍 센	ん			
	イ 이	ギ 기	リ 리	ス 스 쓰	じ 진 징	ん	で 데	す 스 쓰								
9	ちゅ 츄 쥬	う × 우	ご 고	く 쿠	か 까 카	ら 라		き 키	ま 마	し 시	た 타 따					
10	あ 아	の 노		か 카 까	た 타 따	は 와		ど 도	な 나	た 타 따	で 데	す 스	か 까 카			
11	こ 고 코	れ 레	は 와		じ 지	しょ 쇼	で 데	す 스 쓰								
12	そ 소	れ 레	は 와		な 난	ん	の 노		ざ 잣 쟈	っ	し 시 씨	で 데	す 스	か 까 카		
13	あ 아	れ 레	は 와		に 니	ほ 홍 혼	ん	ご 고	の 노		ほ 혼 홍	ん	で 데	す 스 쓰		

14	こ 코 고	の 노		か 카	ぎ 기	は 와		だ 다	れ 레	の 노	で 데	す 스 쓰	か 까				
15	そ 소	の 노		か 카	ば 방	ん	は 와		わ 와	た 타 따	し 시	の 노	で 데	す 스 쓰			
16	あ 아	の 노		て 데 테	ちょ 쵸	う × 오 우	は 와		せ 센	ん	せ 세	い × 이 에	の 노	で 데	す 스		
17	こ 코 고	れ 레	か 까 카	ら 라		お 오	せ 세	わ 와	に 니		な 나	り 리	ま 마	す 스 쓰			
18	こ 코 고	れ 레		ほ 혼	ん	の 노		き 키	も 모	ち 치 찌	で 데	す 스 쓰					
19	た 타 다	な 나	か 카 까	さ 상	ん	は 와		な 난	ん	さ 사	い 이	で 데	す 스 쓰	か 까 카			
20	こ 코	れ 레	は 와		か 캉 칸 간	ん	こ 코 꼬	く 쿠 꾸	ご 고	の 노		きょ 쿄	う × 오 우	か 카 까	しょ 쇼	で 데	す 스 쓰
21	こ 코	こ 코 꼬	は 와		しょ 쇼	く 쿠 꾸	ど 도	う × 오 우	で 데	す 스 쓰							
22	で 뎅 덴	ん	わ 와	は 와		あ 아	そ 소	こ 코 꼬	で 데	す 스 쓰							
23	お 오	て 테 떼	あ 아	ら 라	い 이	は 와		ど 도	こ 코 꼬	で 데	す 스 쓰	か 까 카					
24	お 오	く 쿠 꾸	に 니	は 와		ど 도	ち 치 찌	ら 라	で 데	す 스 쓰	か 까 카						
25	こ 코	れ 레	は 와		ど 도	こ 코 꼬	の 노		ネ 네 넥	ク 쿠 크 ×	タ 타	イ 이	で 데	す 스	か 까 카		
26	あ 아	れ 레	は 와		ど 도	こ 코 꼬	の 노		カ 카	メ 메	ラ 라	で 데	す 스 쓰	か 까 카			
27	こ 코 고	れ 레	は 와		か 캉 칸	ん	こ 코 꼬	く 쿠 꾸	の 노		じ 지	ど 도	う × 오 우	しゃ 샤	で 데	す 스 쓰	
28	か 카 가	い 이	ぎ 기	し 시	つ 쯔 츠	は 와		な 난 낭	ん	か 까 카	い 이	で 데	す 스	か 까 카			
29	ち 치 찌	か 카 까		い 잇 익	っ	か 까 카	い 이	で 데	ご 고	ざ 자	い 이	ま 마	す 스 쓰				
30	そ 소	の 노		ワ 와	イ 인 잉	ン	を 오		み 미	せ 세	て 데 테		く 쿠	だ 다	さ 사	い 이	